

第63回 Kozoom28 「盆踊りのギネス記録達成」

清水健二

今年の夏の暑さは異常で、観測以来最高の気温を記録し、毎年更新しているというからこれから先を思うと恐ろしい。命に関わる気温上昇に不要不急の外出は控え、クーラーの在る部屋で休み、喉が乾いていなくても、定期的に水分補給をしろとTVは親切に教えてくれる。

そんな中でも、8月のお盆が過ぎた8月23日、24日の夜は当地の八尾市の古刹「常光寺」では地蔵盆が催された。



八尾常光寺の盆踊りポスター



河内音頭発祥の碑(常光寺)



常光寺山門前



盆踊りに興ずる人々

元々、盆踊りは平安時代中期に仏教の「念仏踊り」を、空也上人により布教したのが始まりで、お盆の頃に先祖の霊を迎えて、共に過ごし送り出す行事である。近親が集まると共に近隣の人たちとも繋がりを大事に継承されてきた。江戸時代には広く踊りとして庶民に根付き、男女の楽しみの一つとして地方独自の伝統芸能に発展していったようである。日本三大踊りとして、秋田県の西馬音内(にしもない)盆踊り、徳島県の阿波おどり、岐阜県の郡上おどりが良く知られているが、古さと時代の流れに変化していった河内音頭は、戦後以降激しい踊りになって人気が急上昇してきた。常光寺は室町時代に再建された時には「木遣り音頭」として始まり、「正調河内音頭」として穏やかな踊りとして今も引き継がれている。一方現在広く知られている河内音頭は、明治時代初期に「歌亀(うたかめ)」という音頭とりが舞台上で歌い出したもので、戦後ジャズやロック、ヒップホップを取り込んだリズムと激しい踊りに変化してきて、若者達に受け入れられ誰でも踊りの輪に入り自由に楽しむようになってきたという。

演歌歌手・中村美律子が歌う「河内おとこ節」は1989年から流行りだして、河内音頭の踊りと共に当地では、宴会には威勢が良く出て出し物として好まれるものとなってきた。一方地元文化として演劇や落語なども影響を受け、文化会館で披露され継承されてきており結構楽しい夏を過



盆踊りにちなんだ催事

ごすことができるのが良い。

八尾市内にある久宝寺緑地公園は大阪府内でも規模も大きく、ここで河内音頭まつりが行われた。2017年9月9日ギネス記録目指して踊り人全員が浴衣を着て5分間正確な振り付けで踊り続け、5%以上の方が踊りに間違いがあれば失格となるルールのもとで、約50人単位に1人の審査員が手分けしてチェックし、総数2872人の参加者を数えた結果ギネス記録に認定された。その日に、もの好きな私は見物に出かけ、参加者の意気込みや緊張感を目の辺りに見ながら、日本人はこんなにも踊り好きな民族なのかと認識したものである。

今年の大阪・関西万博でも、7月26日盆踊りの新しいテーマソングに合わせて、踊り手の参加者3946人、国籍数62カ国が、決められたルールに従って、ギネス記録を打ち立てた。8年間の八尾の盆踊り記録は万博の記録に破られたのである。

盆踊りは日本の夏の風物詩として各地で執り行われ、本来の仏教布教としての踊り念仏から遠く離れてしまって

イベント化してしまっているが、生活の中で多くの人たちに愛された楽しみとして継承されるのは素晴らしい行事だと思う。しかもギネスの記録獲得を目標に多くの人々が挑戦し達成した思いは何よりも尊いものだと感じた。日々何かを目標に生きていく喜びを持てる毎日でありたいと願いながら、今日も猛暑の続くこの夏を乗り切りたいと思っている。



河内音頭踊りでギネス挑戦



八尾市内の広場にある看板



関西万博でギネス挑戦